

## 事前質問に対するご回答

株主の皆様より事前にいただいたご質問の中から、ご関心の高い事項について回答させていただきます。

質問 名古屋駅地区再開発計画に関して、計画の実現性や事業の将来性をどのように考えているのか。

回答 本再開発計画の事業化にあたっては、設計会社等とも工事の計画や工程について十分な検討を重ねたうえで、2033年度には建物全体の9割程度にあたる1期本工事を竣工し、2040年代前半には2期本工事の竣工及び駅の4線化が実現可能と判断いたしました。

また、採算性につきましても、工事費高騰や人手不足などへの対応を含め、効率的な計画の見直しを図るなど十分検討いたしました。本再開発計画は、日本有数の交通結節点である名古屋駅直結という極めて優れた立地にあることから、商業・オフィス・ホテルいずれにおいても、高い需要が見込めるものと認識しております。再開発による様々な波及効果を最大限取り込み、一層のリターンの拡大を図ってまいります。

質問 株価向上の施策についてどのように考えているのか。

回答 当社においても、株価向上は経営の重要課題であると捉え、様々な施策に取り組んでおります。

当社は、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」として、名鉄グループ中期経営計画に定める諸施策を着実に実行し、重視する経営指標である営業利益とROEを高めてまいります。これにより、企業価値の向上と株式市場からの評価につなげ、ひいては、1倍を割れておりますPBRの改善を図っていくことで、株主の皆様のご期待にお応えしてまいりたいと考えております。

その実現に向け、基幹事業である交通事業を基盤としつつ、不動産事業のさらなる成長や、運送事業・流通事業等の収益性の改善など既存事業における収益成長・収益改善を着実に進めていくほか、M&Aなどのアライアンスを活用した成長戦略を実現してまいります。また、政策保有株式の計画的な縮減や保有資産の流動化など、資産効率を高める取り組みも進めてまいります。

加えて、株主様への還元の強化としては、連結配当性向30%以上を目安とする還元方針に基づき、来年2026年3月期の配当につきましては、1株当たり40円とする予定でございます。このほか、必要に応じて、機動的に自己株式の取得も実施してまいります。

業績の向上及び株主還元の強化により、株主様のご期待にお応えできるよう、取り組んでまいります。

質問 コロナ禍で見直しされたダイヤを以前の水準に戻し、空港アクセスや特急停車駅を見直す予定はないか。

回答 コロナ禍で定着したテレワークなど新常态の影響などによる輸送需要の減少に対応して輸送力の適正化を図るため、2021年5月のダイヤ改正において、全線にわたって見直し等を実施し、ミュースカイについても、一部の区間で減便をいたしました。

2024年度の輸送人員は、徐々に回復傾向にはありますが、コロナ感染拡大前には及ばない状況にあります。

しかしながら、中部国際空港アクセスに関しては、航空旅客のみならず愛知県国際展示場のイベントにお越しになるお客様も多くご利用され、当社としても特に重要であると認識しております。本年5月からはお客さまのご利用状況を踏まえ、土休日ダイヤの一部ミュースカイについて、4両から8両に増結し運転しております。今後もご利用状況を見極めつつ、機動的に対応してまいりたいと考えております。

また、快速特急及び特急停車駅につきましては、ダイヤと同様に実際のご利用状況を考慮しつつ、速達性の確保という観点も踏まえ、総合的に勘案し設定しております。

今後もお客さまのご利用状況を踏まえた上で、適正な輸送力の確保及びダイヤの編成を行ってまいります。

以上